

日本インテリア学会 北陸支部 R5 年度第 1 回イベント：“金沢の新建築物見学会”

日時：R5 年 11 月 3 日（金）「文化の日」10 時～15 時

見学場所：（新）金沢美術工芸大学校舎・（新）石川県立図書館

参加者：棒田、佐伯、川本、長山

当日は、三連休の初日で人出も予想され、晴天で 11 月にも関わらず“夏日”であった。金沢美術工芸大学の入口で午前 10 時に待ち合わせ、定刻に集合したメンバーは自己紹介を行い、新校舎の見学に向かった。

新校舎は、カワグチテイ建築計画（Kawaguchi Tei Architects）によるプランニングで、建築コンセプトは“『創造』と向き合い、『美』が連携する街のようなキャンパス”で、大学の活動を広く発信する場となる「アートプロムナード」と制作に集中できる囲われた空間「創作の庭」により、地域に開きつつ、学生が創造と向き合えるキャンパスを実現している。創作の庭を取り囲むように配置した「共通工房」は、専攻を越えて利用可能な共有の加工・制作のための場所である。また「アートコモンズ」をキャンパス全体に分散配置し、様々な専攻が展示や合評会のためのスペースとして利用する。共通工房とアートコモンズを設けることで、日常活動の中で他分野の創作に触れながら、互いに刺激し合うことのできるキャンパス計画だそうである。

当日は、新校舎で美大生にとって初の学園祭が行われていた。校舎はモダンで規模が大きく、窓も大きくて明るく、ゆとりが感じられた。しかし、校舎内の動線は複雑で、部外者にとって迷路のような感じが拭えなかった。現段階では、新校舎のお披露目の記念イベントが開催されており、引越し作業の途上である事などにより、部屋によっては未完成な所も少なからず見受けられた。しかし、オープンな階段教室・イベント会場となる透明屋根付きプラザや様々なエリアにおけるアートコモンズ、或いはアートプロムナードや共通工房など、魅力的な要素にも多々気付かされた。引越しが一段落して、様々な機能が定着した時点で評価が確定すると思われる。



昼食は、当初「小立庵」を想定していたが、より近くて美味しいとの事で、棒田先生ご推薦の“洋食屋・グリルニュー「狸」”で洋風「チャーハン+サラダ」を頂いた。

午後から、金沢美術工芸大学の真向いにある（新）石川県立図書館を訪ねた。「環境デザイン研究所」会長、仙田満氏設計による石川県立図書館は、地上4階・地下1階建て、延床面積約2万2,700平方メートルで、周囲を広場や緑地、約400台分の駐車場が囲んでいる。図書館の開架は約30万冊、書庫の収蔵能力は約200万冊、閲覧席数は約500席の規模である。閲覧エリアのほか、研修室やラーニングスペース、モノづくりや食文化を体験する部屋などを備えた文化交流エリアもあり、様々な知的活動が展開できる。

建物の外観は博物館の様な格調高くキュービックなイメージで、上方から見ると正方形のプランである。2階以上のファサードは湾曲した外壁とカーテンウォールを雁行させて配置し、風にめくれた本のページをイメージさせるデザインである。

内部は、コロシアムの様な開放的かつ立体的な空間である。外壁とスリット状のガラス窓の構成により、直射光を適切に排除しつつ開放的な閲覧空間を実現している。建物中心部に設けた吹き抜け空間であるグレートホールは、円形劇場を向かい合わせたような階段状の空間で、書架と多様な閲覧席により構成される各段は、スロープによって1階から3階まで結ばれている。この周囲には4階のリング状の閲覧空間やホールとして使用できる階段状広場、大型の家具のある児童エリア等を配置し、刻々と情景の変わる館内をめぐることができる。館内各所には、石川県の豊かな工芸文化や風土の一端に触れられるよう、工芸作品が配されている。色彩計画としては、ベンガラ色のベースカラーに、加賀五彩という加賀友禅にみられる伝統色がアクセントカラーに用いられている。グレートホールの天井には前田家の成巽閣にみられる藍色が用いられている。

“貸出中心ではなく課題解決型・探求型の図書館であり、コミュニティや伝統文化と連動した新しい型の図書館”という基本構想の内容を踏まえ、公園のような、目的がなくても何気なく訪れることができる図書館を目指している。

館内を一望すると、宇宙空間を眺めて居る様な気分になり、映画“未知との遭遇”のワンシーンを思い出す。圧倒されると同時に言葉を失うくらい印象深い空間である。家具全般のデザイン・監修は川上元美氏によるものである。品格があり、居心地のよい「オーセンティックな環境づくり」を主眼に置き、100種を超える閲覧席を館内随所に設けられていて、アクセントとして名作椅子が様々な場所に配置されている。開館して2か月弱で、25万人を超える来館者が訪れたと言う。「図書館の概念が変わった」という声も多い。大変見応えのある図書館で、本好きには堪らない図書館であると言える。



見学会自体は、関係各位の協力により円滑に進められた。昼食や休憩時間帯には、次回大会の具体的な活動スケジュールを話し合うなど、有意義な情報交換の場を持つことができた。

以上